

# 図書館員の 押し絵本

4/2(木)「国際子どもの本の日」の前後、3/27(金)～4/9(木)は絵本週間です。子どもから大人までをとりこにする絵本の魅力を、身近な図書館で感じてみませんか。図書館員おすすめの絵本や絵本選びのポイントを紹介します。  
図書館 ☎(87)1001

## とにかく わくわくする絵本



「からすのパンやさん」  
かこさとし 作・絵  
(偕成社)  
からすの家族が力を合わせてさまざまな形のパンを作るお話です。絵本を手にした子どもたちは、ずらりと並んだたくさんのおいしいパンに目を輝かせます。「どれがおいしいかな」「この形はなんだろう」と、親子の会話も弾む1冊です。

## 心がじんとする絵本



「ねこのくにのおきやくさま」  
シビル・ウェットシンハ 作  
まつおか きょうこ 訳  
(福音館書店)  
平和に暮らすねこのくに。でも何か足りない…。そこへやってきた不思議なお客が、ねこたちに素晴らしい喜びを与えてくれます。けれどなぜかお客は決してお面を外そうとしません。その謎が解けるまでのわくわくと、解けた後のやりとりが、心にじんときます。鮮やかな色使いも、不思議な世界観にぴったりです。

## はじめての絵本



「だるまさんと」  
かがくいひろし 作  
(ブロンズ新社)

自分が好きだった絵本を子どもと読むのも、特別な時間が過ごせそうですね



擬音語など音の響きがおもしろい絵本は、親子で全身を使って楽しめます



だるまさんとお友だちとの触れ合いがたまらなく温かい一冊です。言葉のリズムも心地よく、お辞儀をしたり、「ぎゅっ」とお子さんを抱きしめたり、子どもと一緒に決めポーズを取りながら楽しめるのが魅力です。親子でとても幸せな気持ちになりますよ。

## 大人にこそ読んでほしい絵本



「カビバラがやってきた」  
アルフレド・ソデルギット 作  
あみの まきこ 訳 (岩崎書店)

絵はモノクロに赤が映えるしゃれた雰囲気ながら、どこかほげた味が魅力。カビバラとニワトリの交流がほのぼのとして楽しめます。どこかミステリアスなカビバラの姿にちょっぴり風刺が効いていて、大人の心にも刺さる1冊です。

長く読み継がれている絵本の中で、お気に入りを見つけるのもおすすめです



## 絵本の魅力を体験しよう

### ブックスタート

市では絵本を通して親子が触れ合う時間を持ってほしいという願いを込めて、絵本2冊と読み聞かせ体験をプレゼントしています(1人1回)。

**対象** 生後7か月～1歳6か月の赤ちゃん  
**場所** 保健所の「すくすく7か月児育児相談」、図書館本館・香川分館

### おはなし会

図書館本館・香川分館で赤ちゃんから小学生までを対象に、読み聞かせやお話(ストーリーテリング)、手遊びなどを行います(6面に関連記事)。

### 「赤ちゃんと一緒に楽しむ絵本」コーナー

図書館本館に入ってすぐに、赤ちゃん向けのおすすめ絵本が並ぶコーナーがあります。赤ちゃんにどんな本を選んだらいいのか迷う時には、まずここをチェック。市HPでも紹介しています。  
ブックリスト

### 「絵本がつなぐ国際芸術文化交流」参加者募集

クリエイターシティ・チガサキを掲げる市では、文化芸術による国際交流を図る取り組みを進めています。その中で今回、茅ヶ崎市国際交流協会とインドネシア大学の協力により、茅ヶ崎ゆかりの作家の絵本をインドネシア語に翻訳しました。しおりにインドネシア語でメッセージを書いたり、翻訳のシールを貼ったりして、現地の学校などに贈るイベントに参加しませんか。



翻訳された絵本の一例  
「もりのおくりもの」  
たるいし まこ 作(福音館書店)

**日時** ①3/16(月)14時～16時30分②3/29(日)10時～12時30分、14時～16時30分  
**場所** 交流スペース「まちスポ茅ヶ崎」(浜見平10-2BRANCH茅ヶ崎3)  
**定員** 各回15人(抽選)  
**申込** ①3/9(月)まで②3/12(木)まで  
**問合せ** 文化推進課 ☎(81)7148



## 絵本作家 垂石眞子さん

### 一冊の絵本との出会いが人生を変えることも

茅ヶ崎ゆかりの絵本作家である垂石眞子さんに、自身のことや絵本の魅力について聞きました。



垂石眞子さん  
茅ヶ崎市出身。多摩美術大学卒業後、デザイン会社勤務を経て絵本作家に。主な作品に「もりのおくりもの」「しょうぼうじどうしゃのあかいねじ」「あつい あつい」など多数

**Q 絵本作家になったきっかけは?**  
私が子どものときは、今ほど絵本が身近にある時代ではありませんでした。大人になってから海外で見たスウェーデンの絵本「リッタンとねこ」との出会いが、その後、絵本作家へと人生を変えるきっかけになったと思います。絵本では作者の幼い娘が日常の中で冒険をする物語を、いたずら書きのようにさらりと描いています。当時は出版するつもりはなく、父親がただ娘のためだけに描いた、とても素朴で純粋な作品に心を打たれました。

**Q クリエイティブなお仕事ですが、日ごろどのように過ごしていますか?**  
ふと思いついたアイデアは、すぐに描き留めるようにしています。日常には面白いことがあふれています。例えば、電車の中で見かけた人の仕草や、外の風景。ちょっとしたことで、「あ、面白い」と思うと、つい描いてしまうんです。子育て中は、しっちゃんかめつちゃん生活の記録みたいなものを、山のように描いていました。どんなに大変なことも、描いて笑い飛ばすと、気持ちが浄化されるんです。それは本にしようと思っていたわけではなく、日常的に「描かずにはいられなかった」という感じでしたね。

**Q 絵本づくりで大切にしていることは?**  
「垂石さんの本は、全部絵が違うね」と言われることが多いのですが、対象年齢や物語の内容によって表現を変えているからなんです。赤ちゃんの絵本に登場する動物や食べ物などは、子どもが初めて出会うものが多いため、分かりやすく、基本に忠実に描くようにしています。それに、悲しい話と笑ってしまう話が同じ絵で描かれていたら違和感があると思うんです。

**Q 絵本の魅力は?**  
一番の良さは、「時間を自分でコントロールできること」です。ゆっくり読んでもいいし、前のページに戻ってもいい。何度でも、好きなときに読める。絵本を読んで、子ども自身が何かを発見できればいいし、絵本を読んだ(読んでもらった)経験は心のどこかにずっと残っています。そして絵本から始まり、少しずつ文章の長い本を読めるようになって、言葉が自分を守る力になります。自分の気持ちを言葉にできることは、とても大切なことです。そんな絵本の魅力を、たくさんの人に知ってもらいたいです。